

自己評価書
(平成30年度)

平成30年度 学校運営のスローガン

共創

新しい教育を共に創造しよう！

平成31年3月

鳴門教育大学附属特別支援学校

I 学校の現況及び目的

1 現況

(1) 学校名 鳴門教育大学附属特別支援学校

(2) 所在地 徳島市上吉野町2丁目1

(3) 学級等の構成

小学部 3学級(複式)

中学部 3学級

高等部 3学級

(4) 児童生徒数及び教員数(平成30年5月1日)

小学部18人, 中学部18人, 高等部23人

児童生徒数59人

教員数27人(正規教員数)

2 目的

(1) 目的・使命

本校の目的は、附属特別支援学校校則第1条において「知的障害及び自閉症の児童生徒に対して、小学校、中学校及び高等学校に準ずる教育を施し、あわせて障害による学習上又は生活上の困難を克服し自立を図るために必要な知識技能を授ける」と定めるとともに、同条第2項では「幼稚園、小学校、中学校及び高等学校の要請に応じて、幼児、児童又は生徒の教育に関し必要な助言又は援助を行うよう努める」と定めている。

また、校則第1条には「鳴門教育大学(以下「本学」という。)における児童及び生徒の教育に関する研究に協力し、かつ、本学の計画に従い学生の教育実習等の実施に当たることを目的とする。」と定めており、具体的には国立教員養成大学の附属特別支援学校として、次のような使命をもった学校でもある。(本年度学校要覧より)

- ① 鳴門教育大学の附属学校として、特別支援教育の理論及び実践に関する科学研究を行う研究学校としての使命
- ② 地域の教育課題を踏まえ、徳島県の教育の発展に寄与する使命
- ③ 鳴門教育大学の学部学生及び大学院生の教育実習等を行う使命

④ 学校研究の成果を活用し、地域におけるセンター的機能を実践的に発揮する使命

(2) 教育目標

本校は、校則第1条に示されている目的の達成のため、学校として、また各学部としてそれぞれ次のような教育目標を掲げている。

<学校教育目標>

- ① 明るい性格と豊かな人間性を育てる。
- ② 日常生活に必要な習慣や態度を養う。
- ③ 生活を高めるため、知識・技能・態度を育てる。
- ④ 強靱なからだと意志を養う。
- ⑤ 集団生活への適応能力を育てる。

<小学部>

- ① 豊かな心、じょうぶな身体を育てる。
- ② 日常の基本的な生活習慣を身につける。
- ③ 興味関心を広げ、自ら取り組む態度を育てる。
- ④ 人とかかわる基礎的な力を育て、集団での活動に参加できる態度を育てる。

<中学部>

- ① 身体健康及び思春期の不安定さに配慮しつつ、生徒自身が心理的に安定した状態で安全な生活を送る。
- ② 自分や他者にとってよりよい結果を得るために、行動する。
- ③ 認知・学習、運動・体力のそれぞれの知識や技能の向上を図るとともに、場面や状況に合わせた態度の育成を図る。
- ④ 個々の「参加」の質を高めるために、学習で身につけた知識・技能・態度を実際の家庭生活・地域生活・労働生活に発揮する。

<高等部>

- ① 心理的な安定を図るとともに、働くための健康な身体と青年期の豊かな心情を育てる。
- ② 主体的に働く意欲や態度，集中力を養う。
- ③ 将来の社会生活に必要な言語・数量に関する基礎的学力および生活技能を養う。
- ④ 人と関わる中で社会性を身につけ，自ら生活を楽しむことができる力を養う。

(3) めざす子ども像

本校では，学校及び各学部の教育目標に基づき，それぞれ次のように「めざす子ども像」を明確に示している。

<学校全体>

- 明るく，仲よくできる子ども
- じょうぶで，元気な子ども
- よく働く子ども
- 力いっぱいがんばる子ども

<小学部 めざす児童像>

- 心と身体の健康向上に取り組むことができる児童
- 身の回りのことが，必要な支援を得てできる児童
- 学習活動に興味を持ち，意欲的に取り組むことができる児童
- 人とのかかわりを大切にし，集団活動に進んで参加することができる児童

<中学部 めざす生徒像>

- 健康な身体と健全な心を持つ生徒
- 周りの人に自分から意思を伝え，係わりあえる生徒
- 学びや体験をとおして「分かる」「できる」「こうすればいい」ことを自分から見つけられる生徒
- 自らの興味や関心，楽しみを広げ，様々な生活場面に参加できる生徒

<高等部 めざす生徒像>

- 身体と心の健康に気をつけて，人や自然を愛することができる生徒
- 進んで働こうとする意欲やチャレンジ精神を持つことができる生徒
- 自分でできることは自分でして，できないところは支援を求めることができる生徒
- マナーやルールを守って積極的に社会参加をしようとする生徒

平成30年度の重点目標

- ① 学習指導要領改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の創造と，それに伴う「個別の指導計画」の改善と作成を行う。
- ② 学校全体において，協調・協力体制を整えるとともに，学校HPや文書を活用することで積極的に情報を発信し，開かれた学校作りに努める等，円滑な学校運営を図る。
- ③ 地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を発揮し，教育相談や来校相談の機会や内容を充実させ，地域への貢献を推進する。
- ④ 児童生徒一人ひとりの障がいの特性や発達段階等に応じた授業の改善・実施を行うなど，特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究・研修を充実する。

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	小学部
今年度の重点目標④	児童生徒一人ひとりの障がいの特性や発達段階等に応じた授業の改善・実施を行う等、特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究・研修を充実する。
小学部の重点課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業研究会を通じて、授業改善を進めるなかで、児童の障がい特性の理解を深め、適切な指導と必要な支援等の共通理解を図る。 2 児童の実態把握や目標達成のために、医療機関の専門家の助言を受け、指導の改善を図る。 3 各教員の自己研修の成果を学部教員で共有し、特別支援教育の専門性の向上を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 年間3回以上授業研究会を設け、充実した会となるようなワークショップを活用し、各教員の意見をまとめ共有すること等により、授業改善の実践を進める。 2 医療機関の専門家の助言や相談シートを学部全員で共有するために、年間3回以上協議会を持ち、指導の改善を図る。 3 学部会において、各教員の自己研修（勤務時間外を含む）の成果について報告する機会を年間3回以上設ける。また、情報の共有を進めるため、データの保存・管理をICT担当教員を中心に進める。 4 学部教員へのアンケートを実施し、8割以上の教員から重点課題に関して「達成できた」という評価を得る。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ol style="list-style-type: none"> 1 研究授業及び授業研究会を実施する（5月～12月）。 2 相談シート、指導・助言の記録等を回覧する（5月～12月）。 3 学部会で、研修報告等の時間を設ける（6月～1月）。 4 学部教員へのアンケートを実施する（1月）。

実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 5月～12月までの間に、研究授業及び授業研究会を5回実施。 2 小学部全員で記録シートを回覧し、放課後の情報交換会を7回実施。 3 発達検査や指導方法等の資料回覧・報告会を5回実施。 4 1月に学部教員へのアンケートを実施。 								
評価指標の達成度及び成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 100%達成した。小学部全体で児童の実態を共通理解することができた。また、適切な指導と必要な支援等の共通理解を図ることができた。 2 100%達成した。児童の実態把握や目標達成のために、特別支援課作成の相談シートをもとに、医療機関の専門家の授業観察や指導助言を受け、指導の改善を図り、共通理解ができた。 3 100%達成した。3名の教員から、研修成果の学部回覧や報告があり、児童への指導の参考になった。共有できる教材や資料について、校内ランの共有フォルダーを活用した。 4 87%の教員がA評価であり、目標を達成した。 								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table border="1" style="width:100%; text-align:center;"> <tr> <td style="width:25%;">A</td> <td style="width:25%;">B</td> <td style="width:25%;">C</td> <td style="width:25%;">D</td> </tr> <tr> <td>80%以上</td> <td>70～79%</td> <td>50～69%</td> <td>49%以下</td> </tr> </table>	A	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
A	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部教員へのアンケート結果。 ・会議録や相談シートなどの記録。 ・研修会の資料回覧回数。 								
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・自立活動における指導内容設定表を生かした主体的な学びの充実。 ・障がい特性に応じた適切な指導及び必要支援の共通理解および実践。 ・保護者や外部関係機関との連携の強化。 								

平成30年度学校運営スローガン 「共創」新しい教育を共に創造しよう！

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	中学部
今年度の重点目標④	児童生徒一人ひとりの障がいの特性や発達段階等に応じた授業の改善・実施を行うなど、特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究・研修を充実する。
中学部の重点課題	多様化した障がい特性や程度、また生徒の実態と生活年齢に応じて、保護者との連携の基に個の自立活動とクラス、学部等の集団における基礎的な環境整備と合理的配慮を充実させる。

目標についての具体的な評価指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒全員に年間2回以上の障がい特性把握のためのアセスメントを行い、実態に応じてそれぞれの生徒に適切な合理的配慮や自立活動が行えるようにする。 2 保護者アンケートとケース会議を年間2回実施する。 3 年間3回以上の参観日と学級や学部懇談において学級及び学部についての説明を行い、中学部の保護者との信頼関係を形成し、将来に向けての環境整備と連携強化を図る。 4 その他、連絡帳での情報交換、各学級の「学級通信」や学部主事の「学部だより」を各10回以上配付する等、学部重点目標の充実に取り組む。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ol style="list-style-type: none"> 1 4月、2月に保護者と個人懇談。教育的ニーズの聞き取り実施。アセスメントの実施。 2 6月、2月に「将来の自立や地域での生活の様子（保護者が困難と感じていること）についてのアンケートを実施。ケース会議を実施。 3 学部懇談や学級懇談を年間を通じて、家庭訪問は必要に応じて実施する。 4 「学級通信」「学部だより」の配付。連絡帳での情報交換。場合によっては、電話等での直接的な連絡を年間を通じて実施する。

実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 4月に保護者と個人懇談。教育的ニーズの聞き取り実施。アセスメントでは、太田ステージ及びS-M社会生活能力検査を実施済。 2 6月、2月に「将来の自立や地域での生活の様子（保護者が困難と感じていること、できるようになったこと）についてのアンケートを実施済。ケース会議は、生徒全員に2回ずつ実施済。 3 学部懇談や学級懇談、参観授業を6月、9月、12月に実施済。夏休み中に家庭訪問を実施済。2月に個人懇談を実施済。 4 毎月「学級通信」各学級10回～12回、「学部だより」は年間12回配付済。毎日の連絡帳での情報交換を実施して、必要に応じて電話等による直接的な連絡も実施している。 								
評価指標の達成度及び成果	・実施計画通りに1から4までを100%実施した。2月の保護者アンケートでは、家庭や地域でできるようになったことがたくさん書かれていた。懇談等で保護者との連携が密になり、生徒の障がい特性や生活実態が的確に把握できた。また、個に応じた授業の改善や実施ができた。								
総合評価 (記号を○で囲む)	<table border="1"> <tr> <td style="text-align: center;">(A)</td> <td style="text-align: center;">B</td> <td style="text-align: center;">C</td> <td style="text-align: center;">D</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">80%以上</td> <td style="text-align: center;">70～79%</td> <td style="text-align: center;">50～69%</td> <td style="text-align: center;">49%以下</td> </tr> </table>	(A)	B	C	D	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
(A)	B	C	D						
80%以上	70～79%	50～69%	49%以下						
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学部保護者アンケート、学校評価（保護者・教員）アンケート。 ・ 中学部会での協議、保護者との懇談等での情報。 ・ 学部便り及び各学級通信の配付数。 								
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自立活動の時間における指導での児童生徒の学習成果及び教員の指導方法を、各教科の授業や、各教科等を合わせた指導である作業学習の授業で、実践し、般化を促していきたい。 ・ 自立活動の時間における指導と教育活動全般における自立活動と関連づけその後、家庭生活や地域生活への般化へと関連づけていきたい。 								

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	高等部
今年度の重点目標④	児童生徒一人ひとりの障がいの特性や発達段階等に応じた授業の改善・実施を行うなど、特別支援教育を担う教員の専門性を高める研究・研修を充実する。
高等部の重点課題	1 卒業生の「生活の自立」に関する実態調査等を含めた研究を行い、「個別の指導計画」に反映させる。 2 新学習指導要領への対応を考慮した教育課程の編成と、児童生徒一人ひとりの特性を考慮し、発達段階に応じた授業づくりを行う。考慮したアセスメントと校内の課題として研修の機会を提案し教員の専門性向上を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	①これまでの研究成果を基に、3回/年以上の研究授業ならびに授業研究会を実施する。 ②外部リソース（鴨島病院・福祉サービス事業所職員等）との協働体制を確立し、授業改善を進めるために、聞き取りやアンケートを実施する。 ③生徒の実態把握のためにアセスメント（太田ステージ、S-M社会能力検査）や個人懇談を3回/年以上実施する。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4月：アセスメント（LDT-R、S-M社会生活能力検査）を高等部全員に実施する。 5月～12月： ①研究授業および授業研究会を実施する。（6月・12月）。 ②課題について外部リソースからの助言をもとに高等部の「生活の自立」の在り方について高等部教員で協議する。 2月：教員の育成評価システムの自己評価と高等部教員の協議による評価を参考に総合的評価を行う。 ※研究成果等を基にして「高等部教育目標」「めざす生徒像」の改訂を通して、特色（魅力）ある高等部の在り方を検討する。

実施状況	①学校全体の研究授業2回、学部内の研究授業を2回実施した。 ②就業体験の外部評価は全員の生徒に、専門家の助言は3名の生徒に実施した。 ③生徒全員に3回の個人懇談とアセスメントを実施した。 ※卒業生の「生活の自立」の状況は、青年学級や就業体験先での状況を聞き取りし始めた。次年度には詳細に聞き取りを実施していく。 ※「高等部教育目標」「めざす生徒像」の改訂は、新学習指導要領（高等部が公示されたので、新年度に実施する。			
評価指標の達成度及び成果	① 100%達成済。授業研究会を通して研究の方向性や教員の専門性の向上に関する考え方を学部内で共通理解できた。 ② 100%実施済。 ③ 100%実施済。5月末までにアセスメント（LDT-R、SM社会能力検査）を実施して、個人面談による進路希望は、就業体験先の選定に反映している。 なお、必要に応じて進路指導主事が面談に参加している。			
総合評価 (記号を○で囲む)	A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①学校全体の授業研究会、学部研究会の回数、個別のケース会議等。 ②外部評価である就業体験評価表、専門家の助言、青年学級等。 ③今年度の取組を踏まえた学部会における協議。			
次年度の課題	・「自立活動指導内容設定票」を活用した授業について、生徒一人ひとりの「生活の自立」に向け、「自立活動の時間における指導」「作業学習」の質の向上をめざしたい。 ・評価指標以外の「高等部教育目標」「めざす生徒像」を改訂することで、高等部全体の系統性をより明確にしていきたい。			

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	発達支援センター		
今年度の重点目標③	地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的役割を発揮し、教育相談や来校相談の機会や内容を充実させ、地域への貢献を推進する。		
発達支援センターの重点課題	特別支援課と連携し、特別支援教育のセンター的機能である次の3部門の充実を図ることで、国立教員養成大学の附属特別支援学校として、地域におけるセンター的役割を本校の特色として発揮する。 ①研修協力機能（研修会における講演やワークショップ等の講師として） ②相談・情報提供機能（訪問型及び来校型の保育・教育相談） ③指導・支援機能（「すぎのこ教室」実施と修了児のフォローアップ）		
重点課題に対する具体的な評価指標	①研修協力機能：講演や研修会講師を年10回以上実施する。 ②相談・情報提供機能：鳴門教育大学第3期中期計画・中期目標に沿って相談 支援等 150件、うち15名の教員等に対しては複数回の相談を実施する。 ③指導・支援機能：「すぎのこ教室」実施とフォローアップの相談等を年間3回以上実施する。		
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①・②各校園からの相談や講師派遣依頼を受け付けると共に、徳島市教育研究所、徳島市子ども施設課等と連携し、指導の必要性が高い事例について情報交換を進める。 ③対象児の指導を進めながら、出てきた課題に対して対人行動や社会的コミュニケーション、言語理解等を促す指導内容や教材開発を行う。		
実施状況	①研修会講師として13回（小学校4、保育・教育連絡会等6、地教委1、保育行政1、本学1）の研修協力を行った。 ②相談支援等を190回（予定）実施した。うち22の支援先、70名以上の教員等に複数回の相談を行った。（支援先の数は保育所6、幼稚園3、小学校9、高校1、特別支援学校1、保育・教育行政2） ③すぎのこ教室修了生の中学校への引き継ぎ1回、すぎのこ教室の直接指導を7回実施した。		
評価指標の達成度及び成果	①評価指標を100%達成した。地教委や子ども施設課、県保育連合会など、実施効果の高い事案を担当することができた。 ②評価指標を100%達成した。支援先から複数回や定期的な依頼があり、評価指標を超える相談や情報提供ができた。 ③評価指標100%達成した。幼児期にすぎのこ教室で支援した人を小学3年時に指導でき、支援のつながりに関する課題を収集できた。		
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C
	80%以上	70～79%	50～69%
評価根拠	・相談実施件数から。徳島市教育研究所「中学校区特別支援教育連絡会講師」「徳島市教育支援委員会委員」徳島市子ども施設課「保育所長研修」「新任保育士研修」「障害児保育検討委員会委員」等を委嘱された。本学の研修会にも参加して、個々の相談だけでなく、本校が位置する徳島市を中心に、地域における特別支援教育のネットワーク構築に貢献した。		
次年度の課題	・本年度は発達支援センター長1名、巡回教育相談員2名で実施した。巡回教育相談員は学級担任を兼務し、相談曜日は原則固定されるため、その他の曜日の相談は、授業の調整等が必要な場合もあった。 ・第3期中期計画・中期目標の達成のためには、相談担当者数や相談曜日、各学部及び学校の支援体制をさらに整える必要がある。		

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	教務課			
今年度の重点目標①	学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえた新しい教育課程の創造と、それに伴う「個別の指導計画」の改善と作成を行う。			
教務課の重点課題	①個別の指導計画の作成が円滑に進むような運営をする。 ②個別の指導計画の現状と課題、解決策について調査、検討する。 ③学習指導要領の改訂を踏まえ、個別の指導計画の質的向上を目指した書式等や「尺度表」の見直しや改訂に取り掛かる。			
重点課題に対する具体的な評価指標	①個別の指導計画作成に係る手続きを共通化し、企画運営委員会・職員会議（終礼）・学部会で手続きの周知を図るとともに、作成状況を共有する。 ②教員を対象とした個別の指導計画に関するアンケートを年度前半に1回実施して、年度後半には課題の整理や改善につながる取組を進める。 ③個別の指導計画や尺度表の改訂についての検討（教務課会内や各学部会での聞き取り等）を、年間4回行う。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4～5月：個別の指導計画作成に向けた必要書類の準備や日程等の周知 6～7月：個別の指導計画に関するアンケート作成と実施、回収 8～9月：個別の指導計画のアンケートに基づく協議、尺度表の見直し 10～1月：協議結果に基づく改善案、尺度表の見直しと改訂版の作成 2～3月：個別の指導計画に関する改善案、尺度表の進捗状況のまとめ、重点課題の評価等を企画運営委員会や職員会議等で検討・周知			
実施状況	①「個別の指導計画」作成について、学校全体で手続きを共通化した。入力メー切やグループでの協議、起案等の作成手順を「見える化」して、終礼や校内ポータルサイト及び校務支援システム「ミライム」で周知した。 ②7月に職員アンケートを実施した。夏季休業中に現状の課題を把握して、課題を整理した。教務課会で検討し、8月の企画運営委員会で「個別の指導計画」の改訂案を提案した。 ③教務課会や学部会で検討や意見の聞き取り（もしくは資料回覧）を4回以上、実施した。			
評価指標の達成度及び成果	①達成済。「個別の指導計画」作成や配付の手続きを共通化した。 ②達成済。「個別の指導計画」アンケートから課題や改善案をまとめ、新書式を提案した。現在は新書式での運用に向けて準備を進めている。 ③達成済。「個別の指導計画」改善に向けての検討を、教務課会等で6回実施した。学習指導要領改訂に基づく「尺度表」改訂は、高等部学習指導要領公示後の、次年度に取組を始める。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	①教務課会記録、企画運営委員会会議録、職員への配付資料による。 ②アンケート結果、改善案の提案資料、「個別の指導計画」の新書式、教務課会記録、企画運営委員会会議録による。 ③教務課会記録、企画運営委員会会議録、学部会記録による。			
次年度の課題	○「個別の指導計画」の書式改訂に向けた運用の円滑化。 ○「個別の指導計画」の質的向上を見据えたマニュアルの整備。 ○新特別支援学校学習指導要領（小・中・高）に基づいた「尺度表」改訂。			

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	総務課
今年度の重点目標②	学校全体において、協調・協力体制を整えるとともに、学校 HP や文章を活用することで積極的に情報を発信し、開かれた学校作りに努める等、円滑な学校運営を図る。
総務課の重点課題	① 本校のHPを通して、学校での授業や学習活動、行事等の様子を配信し、保護者への情報提供を行うとともに、情報機器関係の管理と ICT 教育の推進を行う。 ② 校内防災備蓄品の整理・点検を行い、災害時に備える。

重点課題に対する具体的な評価指標	①-1 本校のHPを通して、学校での授業や学習活動、行事等の様子を発信する。 (学校評価アンケートにおける保護者の肯定的評価 70 % 以上)。 ①-2 ICT 機器の使用法、活用方法等の習熟を図るため、ICT 機器の活用についての研修会を実施するとともに、情報機器の備品リストを整理するとともに ICT サポーターを有効に活用できるように調整を行う。 (学校評価アンケートにおける教員の肯定的評価 70 % 以上)。 ② 校内備蓄品リストを作成し、消費期限・使用期限等を定期的に確認する。 (学校評価アンケートにおける教員の肯定的評価 70 % 以上)。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	①-1 年度初めに保護者を対象としたアンケート(学校での ICT 教育に関する期待の聞き取り及び本校ホームページに求める情報の聞き取り)を実施する。アンケート結果を踏まえ、授業や学校行事の様子等についてHPの更新を行う。年度末の保護者の学校評価アンケートにより評価を行う。 ①-2 年度初めに教員を対象としたアンケート (ICT 機器の活用の現状等) を実施して、結果をもとに夏期休業中研修会を実施する。研修会実施後もアンケートを実施する。 ②-1 各学部で情報機器の備品リストを整理・共有するため、一覧にする。年度末の教員の学校評価アンケートにより評価を行う。 ②-2 備蓄品リストを作成し、倉庫のドア及び職員室に掲示して周知を図る。

実施状況	①-1 ホームページは各行事ごとに更新できた。学校評価アンケートにより、保護者の満足度やニーズの把握をした。 ①-2 教員の希望を取り入れた内容の研修会を8月に実施した。情報機器備品リストは各学部の総務部員が作成し備品の整理整頓を行った。情報機器の不具合には、ICT 支援員と連携し速やかに対応した。教員を対象にした聞き取り調査を年度末に行った。 ② 非常備蓄品は賞味期限や保管状況を確認し一覧表を掲示した。教員を対象に1月末に聞き取り調査を行った。期限間際の備蓄は、期限内に試食するなど有効活用した。			
評価指標の達成度及び成果	①-1 HPを含む、開かれた学校作りの保護者満足度は95%であった。 ①-2 研修会や情報機器の備品管理、ICT 支援員との連携における教員の満足度は88%であった。 ② 備蓄品を含め、学校の学習環境に関する教員の満足度は88%であった。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○ A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	保護者対象の学校評価アンケートの満足度結果や、教員アンケート、及びの聞き取り調査による。			
次年度の課題	学校ホームページの内容及び更新の方法を次のように取り組みたい。 ・児童生徒の作品や行事等、紹介ページの項目を追加する。 ・各学部や各学級の授業や日常生活等の記事を、タイムリーに発信する。			

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	指導課
今年度の重点目標②	学校全体において、協調・協力体制を整えるとともに、学校HPや文書を活用することで積極的に情報を発信し、開かれた学校作りに努める等、円滑な学校運営を図る。
指導課の重点課題	1 児童生徒の実態を考慮して教育活動全体を通じて防災教育及び安全教育を推進する。 2 校内教職員の防災に関する組織活動の充実と防災体制及び安全体制の確立を図る。

重点課題に対する具体的な評価指標	① 最新の防災情報に基づき、本校の児童生徒の実態や地域性に応じた安全管理計画及び消防計画を作成する。 ② 安全管理計画に基づいた実践的な訓練・教員研修を年間10回以上実施する。 ③ 自立して社会参加するための「生きる力」を育むことに関連づけ、各訓練等を通して災害に適応する能力の基礎を培う取組を充実させる。
実施計画 (手だて・スケジュール等)	4月～8月：児童生徒の実態を基にして、関係機関やハザードマップ等を参考に「消防計画」及び「安全管理計画」を作成する。 4月～12月： ・安全管理計画に基づき、地震・火災・津波・交通災害・Jアラート・緊急捜索等に対応に対する訓練と研修を実施する。 ・訓練毎に実施状況を各学部単位で振り返りを実施し、指導課で総括を行う。 2～3月：指導課教員で保護者評価アンケートを参考に総合的な評価を行う。

実施状況	・「消防計画」及び「安全管理計画」を実施計画に則って作成した。特に消防計画では、南海トラフについて追記できた。 ・地震・火災・津波・交通災害・緊急捜索等、防災に対する訓練・研修を10回実施した。夏季休業中に放水訓練、秋休みに斜行式救助袋訓練を実施した。 ・徳島市消防局と連携して防災ラジオを職員室に設置して、今年度からJアラートの情報を受信できるように整備できた。 ・訓練毎に各学部会で振り返りを行い各学部から出された評価について総括を行った。			
評価指標の達成度及び成果	・両計画とも作成・提出済。防災訓練・研修を継続することで、学校全体に防災体制が整い、教職員の防災意識が高まりつつある。 ・10回達成済。児童生徒不明時の緊急捜索訓練を実施して、公益財団法人日本教育公務員弘済会徳島支部の防災教育助成を受けることができた。 ・達成済。学校評価アンケート（保護者）では、防災教育に関する取組についての、肯定的評価が83%であった。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○ A 80%以上	B 70～79%	C 50～69%	D 49%以下
評価根拠	・訓練後の教職員への聞き取り結果や保護者評価アンケート結果による。 ・学校評価（保護者・教員アンケート）を踏まえた指導課会での総合的な評価による。			
次年度の課題	・持続可能な防災訓練の立案や県内外特別支援学校防災訓練の把握。 ・各訓練等を通して災害に適応する能力の基礎を培う取組の充実。 ・防災や安全教育に関する教職員の意識をさらに高揚させる。			

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	研究課			
今年度の重点目標④	児童生徒一人ひとりの障がいの特性や発達段階等に応じた授業の改善・実施を行う等、特別支援教育を担う教員としての専門性を高める研究・研修を充実する。			
研究課の重点課題	1 新学習指導要領の内容をふまえた上で、児童生徒の「 <u>自立活動における指導内容設定表</u> 」を各学部の教員が協議しながら作成する。 2 作成した自立活動における指導内容設定表をふまえ、児童生徒の目標達成に向けて授業実践や事例研究に取り組む。			
重点課題に対する具体的な評価指標	1-① 新学習指導要領について理解を深めるための研修会を3回以上実施する。 1-② 各クラス2名ずつ対象児童生徒を決定し、個別の自立活動指導計画を作成する。各学部の教員で協議し、教員間の共通理解の下で作成する。			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	・全体研究会、企画運営委員会、主事会等を通して研究の進め方等について協議し、共通理解を図っていく。 4～5月：研究主題の決定、新学習指導要領や自立活動についての理解を深めるため、研修会を実施する。 6～7月：各学部毎に新学習指導要領と現状の自立活動指導計画をふまえた研究授業を実施する。 7～8月：個別の自立活動指導計画を学部毎に各クラス2名ずつ対象児童生徒を決め、教員間で協議をして共通理解の下で作成する。 9～1月：個別の自立活動指導計画をふまえて授業実践や事例研究に取り組む。11～12月には各学部毎に全体授業研究会を実施する。 2月：公開授業研究会を開催し、今年度の成果や課題等の発表を行う。 3月：今年度の成果と課題をまとめ、次年度の研究目的や方法を提示する。			
実施状況	1-① 全体研究会を年間6回実施。(うち新学習指導要領関連3回)。県外出張報告会や公開授業研究会の講演でも新学習指導要領に関する内容について話を聞くことができた。 1-② 7～8月に各学部で対象児童生徒を6名以上決めて、自立活動における指導内容設定表を作成し、実態や指導内容等の協議を実施した。 2 全体授業研究会を各学部2回ずつ、計6回実施。研究授業を実施し、当該授業を基に、児童生徒の特性等に応じた目標・支援方法等を検討した。			
評価指標の達成度及び成果	1-① 学校全体で新学習指導要領への理解が深まり、内容をふまえた授業を実施することができた。 1-② 対象児童生徒の「自立活動における指導内容設定表」を作成し、協議できた。書式のアンケートを踏まえ、改訂の準備を進めている。 2 自立活動の視点をふまえた授業のあり方を協議することができた。			
総合評価 (記号を○で囲む)	○ A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	1-①全体研究会資料、公開授業研究会開催資料。 1-②自立活動における指導内容設定表、研究課会記録、学部研究会記録。 2 各学部研究授業指導案、全体授業研究会記録、公開授業研究会指導案。			
次年度の課題	○「自立活動における指導内容設定表」の書式改善、運用に向けた取組。 ○自立活動の視点をふまえた研究授業、授業研究会の実施。 ○新学習指導要領の理解を深めるための研修会の実施。			

平成30年度学校運営スローガン 「共創」新しい教育を共に創造しよう！

平成30年度 鳴門教育大学附属特別支援学校 学校評価シート

各学部・各課	特別支援課			
今年度の重点目標③	地域のニーズに即した特別支援教育のセンター的機能を発揮し、教育相談や来校相談の機会や内容を充実させ、地域への貢献を推進する。			
特別支援課の重点課題	<ol style="list-style-type: none"> 1 校内職員及び外部専門家を講師とした公開研修会で、センター的役割を発揮・充実する。 2 外部専門家を活用して、校内児童生徒への助言を受ける「コンサルテーション」や事例報告会を実施し、教員の専門性を高める。 3 県内外の研修会に参加したり、発達支援センター長とともに外部専門家の校外支援に同行したりすることで、巡回相談員の実践力と専門性を高める。 4 各課と連携して「<u>自立活動における指導内容設定表</u>」を活用し、改訂についての取組を進める。 ※自立活動の個別の指導計画より名称変更した 			
重点課題に対する具体的な評価指標	<ol style="list-style-type: none"> 1 長期休業中に校内教員や外部専門家を講師とした公開研修会を5回実施する。 2 医療機関の専門家（理学療法士・作業療法士・言語聴覚士）と連携し、児童生徒へ助言を受ける「コンサルテーション」を年9回以上実施し、事例の成果報告会を3回実施する。 3 特別支援教育巡回相談員が県教委主催の相談員研修会に年間2回以上の参加するとともに、第3期中期計画・中期目標達成を踏まえ県外の研修機関に相談員を派遣する。また、外部専門家を活用した外部支援に、可能な限り参加する。 4 「<u>自立活動における指導内容設定表</u>」の活用について校内研修を行い、特別支援課会でも5回以上の協議を行い、新学習指導要領を踏まえた書式改訂や実施マニュアル・チェックリストの準備を進める。 			
実施計画 (手だて・スケジュール等)	<ol style="list-style-type: none"> 1 昨年度のアンケートや校内教職員のニーズを参考に、徳島市の学校園や保育所及び県立特別支援学校等の職員を対象にした公開研修会を実施する。(夏期休業中) 2 各学部の児童生徒の実態や特性、及び外部専門家へのニーズを把握するとともに、その活用のための研修会を実施し、「コンサルテーション」を充実させる。コンサルテーションの成果報告会は2月に実施する。(5月～2月) 3 県教委主催の研修会に参加して他の特別支援学校の相談員と連携を図ったり、県外の研修機関での成果を報告して情報発信能力を高めたりする。相談活動は、担当曜日を設定して、徳島市内外の認定こども園・保育所等、幼稚園、小中学校等の教育相談依頼に応じる。(通年) 4 年度当初に自立活動の指導計画について全体研修会を実施し、夏期休業中までの「<u>自立活動における指導内容設定表</u>」の活用度合を確認し、その改訂や改善の参考として課内で協議を行う。また、医療機関の外部専門家「コンサルテーション」では、事前の相談シートに「自立活動の区分・項目」欄を追加して、各教科等との関連を踏まえた年間9回以上実施する。(5月～1月) 			
実施状況	<ol style="list-style-type: none"> 1 長期休業中に校内教員や外部専門家を講師とした公開研修会を4回実施した。 2 コンサルテーションを10回実施した。(うち、事例の成果報告会を3回実施。) 3 2名の相談員が、県教委の「相談員研修会」等に4回参加し、県外出張にも派遣して、専門性を高めることができた。 4 「<u>自立活動における指導内容設定表</u>」について、課会でも年間6回の協議を行い、障がい特性を抜粋して「自立活動」について校内研修会を実施した。「コンサルテーション」では、相談シートの追記を行い、年間10回のコンサルテーションを実施して、自立活動と各教科等との関連を進めた。 			
評価指標の達成度及び成果	<ol style="list-style-type: none"> 1 80%達成。台風接近のため、研修会を1回中止した。外部からは、のべ68名が参加した。研修会の参加者満足度は、95%が肯定的な評価であった。 2 100%達成。3月に校内アンケートを実施予定。 3 100%達成。教育相談便りを年2回発行して、HPにも掲載した。 4 100%達成。自立活動における指導内容設定表の改訂は、学校研究として実施中。 			
総合評価 (記号を○で囲む)	○A	B	C	D
	80%以上	70～79%	50～69%	49%以下
評価根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・公開研修会、コンサルテーションの実施回数。外部専門家活用校内アンケート等。 ・巡回相談先へも事後アンケートを実施した。現在集計中であるが概ね「非常によい」の評価を得ることができている。 			
次年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学校研究の成果や校内実践報告等を、公開研修会の場で積極的に情報提供していくとともに、外部専門家を活用した「コンサルテーション」や「自立活動指導内容設定表」を活用して、全児童生徒の共通理解に生かしていきたい。 ・巡回相談員の専門性向上は、高等学校の通級支援を踏まえ、継続して実施する。 			

平成30年度学校運営スローガン 「共創」新しい教育を共に創造しよう！